

## (10) 電気機械工業

12/11 13/12 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0~▲10%  
: 天気図マーク; ○ ◎ ○ 伸び率0~10% ● 伸び率▲10%以下

### 1. 企業経営動向

#### (1) 需要

平成12年は、A V機器、白物家電ともに輸出、内需が伸び、対前年比プラスとなった。電池は、上半期はI T需要が好調に推移し対前年度比プラスで推移したが、I T需要の落ち込みを受け、結局平成12年度は輸出、内需ともに対前年比マイナスとなった。重電は、輸出、外需の伸びにより、対前年比プラスとなった。

平成13年は、家電リサイクル法施行前の駆け込み需要により、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の内需が大幅増となったが、法施行以降の反動減が予想される。輸出は、A V機器、白物家電ともにほぼ横ばいの見通し。電池は、I T需要の回復が見込まれないことから厳しい状況が続くものと見られる。重電は、輸出が堅調に推移するものの、受注は一服するものと思われる。

#### (2) 生産・設備稼働

平成12年のA V機器、白物家電、重電の生産は、それぞれ対前年比9.1%増、1.4%増、1.2%増と堅調であったが、米国景気の不透明感や家電リサイクル法施行の駆け込み需要の反動が予想されることから、平成13年の生産は伸び悩みが予想される。

#### (3) 企業収益

平成12年度は、各社ともI T関連機器の売り上げが好調であったことから収益は大きく上向いたが、平成13年度は、世界的な景気不透明感により、昨年の需要拡大局面におけるI T関連機器の積み増し在庫の解消メドが立たないことから厳しい収益見通しとなっている。

#### (4) 財務

産業全体として、事業構造改革等の取り組みが進んでおり、財務状況の改善に向けた努力がなされている。

## 2. 設備投資動向

### (1) これまでの設備投資の推移

平成9年度より減少傾向が見られ、平成10年度、11年度と対前年比二桁マイナスと大幅な落ち込みが続いたが、平成12年度見込みでは対前年度比5.6%増と増加に転じた。

### (2) 平成13年度の設備投資計画

家電リサイクル法施行や「グリーン購入」の動き、さらには省エネルギー法改正の動きをにらみ、環境配慮型製品の生産に向けた投資動向が見られ、研究開発投資の185億円増を中心とし、環境保全、省エネに係る投資額が増加し、全体でも対前年度比19.2%増となっている。構成比を見ても、研究開発投資が3.3%増、環境保全投資が0.6%増、省エネ投資が0.4%増となっている。

## 3. 長期資金調達・運用動向(長期資金運用動向、長期資金調達動向)

### (1) 長期資金運用動向

平成13年度計画の長期資金運用額は、対前年度比85.7%増となっているが、平成12年度見込みの対前年度比4.5%減に比べ大幅な伸びとなっている。

### (2) 長期資金調達動向

従来から資金調達を主として内部資金による傾向が続いているが、平成13年度計画においてもこの傾向に特段の変化は見られない。平成12年度見込みから平成13年度計画への変化としては、借入金の償還超過から調達超過への転換、社債の償還超過の減少が見られる。

(グラフ1：設備投資の前年比の推移)

